

第15回福島県都市計画審議会都市政策推進専門小委員会

会議の概要

日 時：令和2年12月23日（水）10：00～

場 所：福島テルサ 3階会議室 あぶくま

1. 開会

2. 議題

県北都市計画地区計画について（伊達市堂ノ内地区計画（市決定））

3. 審議内容

伊達市から事前協議のあった県北都市計画地区計画（伊達市堂ノ内地区計画）の決定について、福島県「都市計画に係る広域調整」実施要綱に基づき、専門的見地からの意見聴取を行うため、小委員会を開催した。

委員から意見は以下のとおり

【委員からの主な意見】

- 大型商業施設が地域経済に与える影響は大きいのではないかと。
- 社会情勢がどんどん変わってきているなかで、まだ郊外に大規模店舗を造るのかという印象である。
- 周辺都市の中心市街地の空洞化に拍車がかかるのではないかと。
- 結果的に地元を潰すことのないよう地元との連携が必要ではないかと。
- 歓迎する意思がある一方、全ての市民が賛成ではないと思う。
- コロナ禍のこのタイミングで大丈夫かという不安がある。
- 全国には、大規模店舗の撤退後、役所が移転してきている都市が多くある。
- 他の大規模店舗を見ると人が少ない状況も見受けられる。よほど良いテナントを入れないと大規模店舗を継続出来なくなるおそれがあるのではないかと。
- 県が定めた都市計画、都市づくりビジョン（拡散型から集約型都市への転換、コンパクトシティ等）との整合について、大きく乖離しないというのは苦しいのではないかと。大きくという表現は、乖離している又は、大きくなければ乖離しても良いと捉えられるのではないかと。
- 今回の事案が県内へ波及するのではないかと心配である。
- 他県では、店舗内の一部を地元農業者に使っていただいて盛況を得ている例もある。周辺地域との連携や関わり方は工夫してほしい。
- 徒歩圏内に大型店舗があると周辺店舗への買い回りがよくなるケースもある。排除だけでなく、いかに地元とうまくやっていくかがポイントになるのではないかと。
- 雇用の面では、多くは非正規採用となると思う。他業種・他店舗からの転換など、地域全体では雇用を生むという意見の信憑性は薄いのではないかと。
- 予定地は、ハザードマップの浸水想定区域が含んでいる。地区計画には記載が無いが、特に住宅を整備する場所は、安全対策を講じる必要があるのではないかと。
- 広大な農地を大規模店舗や大きな駐車場に変えることになるので、CO₂排出量の

増加など環境に配慮した計画となるよう配慮が必要ではないか。

◆委員長まとめ

(1) 伊達市堂ノ内地区計画への意見

①周辺地域、周辺市町との連携について

周辺地域、周辺市町との調整や連携をきちんと考えていただきたい。

福島市、国見町、桑折町からも意見があるように、周辺都市との連携や調整することで、広域圏全体での地域振興を考えるきっかけになると考える。

②防災について

ハザードマップで阿武隈川の浸水想定区域となっている箇所があり、特に住居地域の防災対策のあり方についてしっかり検討していただきたい。

③駐車場について

広大な農地が駐車場となることから、CO₂排出との関係からも環境負荷に配慮し工夫していただきたい。

(2) 県の都市計画への意見

県がH21年3月に策定した都市づくりビジョンについては、社会情勢が変わる中で大きく見直しの時期に来ていると思う。否定するものではないけれども、今後、県北都市計画区域マスタープラン見直しの中で原点に立ち戻って精査、議論していく必要があるのではないか。

◇回答文は、委員長に一任していただき、県に回答することとしたい。

以 上